

因果関係から捉える 問題解決法

ER班

阿部祐也 田上結城
西孝史 林雅貴

2014年4月9日



大阪市立大学商学部
宮川研究室

ご注意

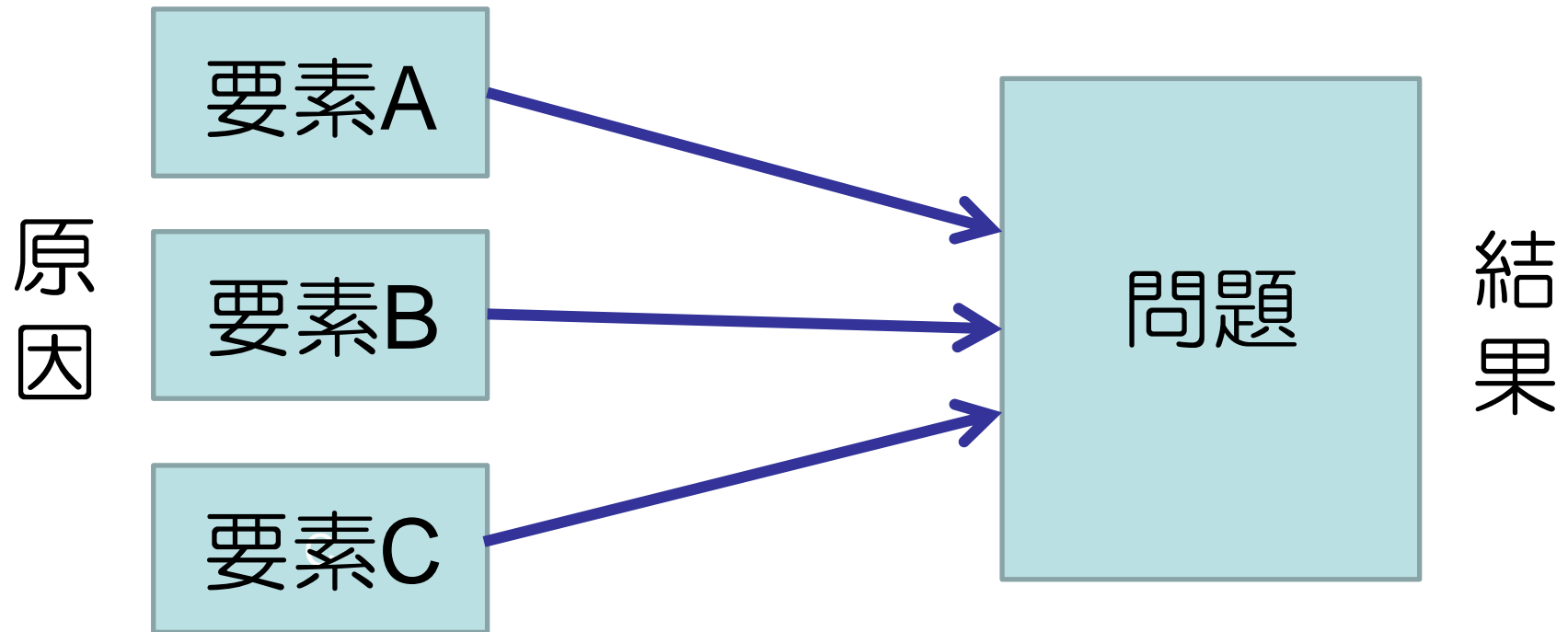
本資料は大阪市立大学および同大学院における講義に使用するため本学学生向けに作成された教材です。また、担当教員の講義を前提とし、講義や議論を進める上での補足資料として学生の理解を促進する目的で便宜的に構成されています。そのため本資料には講義内容や表題のトピックがすべて網羅されているわけではありません。また、本資料には事実ではなく仮説として設定された内容が含まれています。したがって本資料は上記以外の目的や用途で使用しないよう厳重にご注意ください。

目次

1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

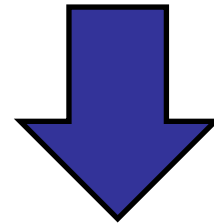
1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

原因と結果のつながり



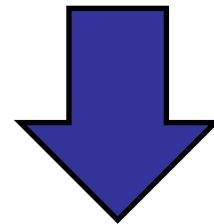
因果関係の把握から問題解決へ

因果関係を見極める



問題の本質を突き止める

事象の構造化



解決策を考案する

問題解決

1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

頭の中に地図を作る

複雑に見える事象を分解し関係性を
明らかにして、全体と部分を理解する

問題解決のためのツール

基礎

- MECE (ミツシー)

発展

- ロジックツリー

把握

- 事象の構造化

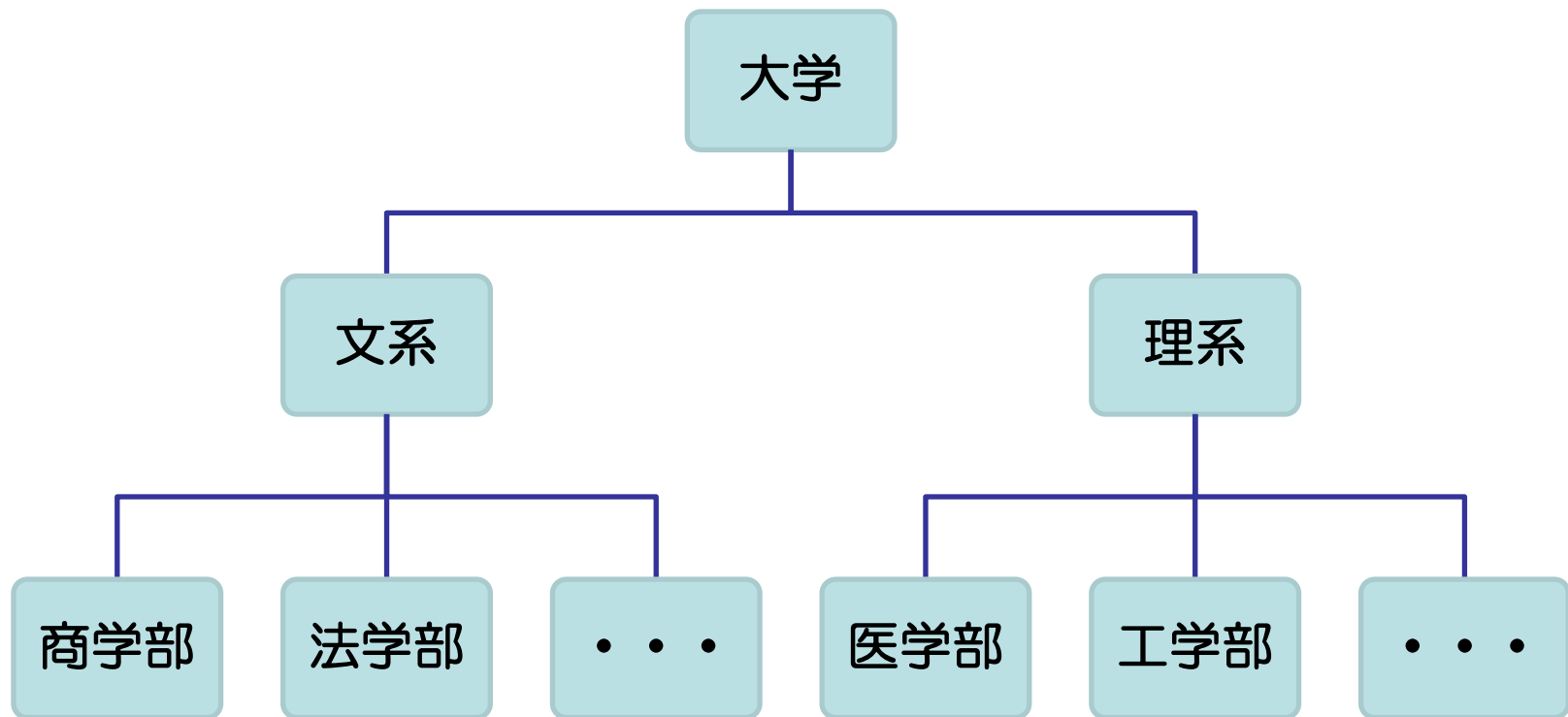
MECE:モレなくダブリなく分ける考え方

例. マーケティングの4P

製品 (Product)	価格 (Price)
プロモーション (Promotion)	流通 (Place)

上位から下位概念に論理的に分解する

例. 大学の学問形態



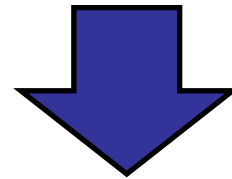
事象の構造化で出来ること

1. 全体像やメカニズムの把握
2. 解決すべき課題の特定
3. 効率的な問題解決

1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

ケーススタディ

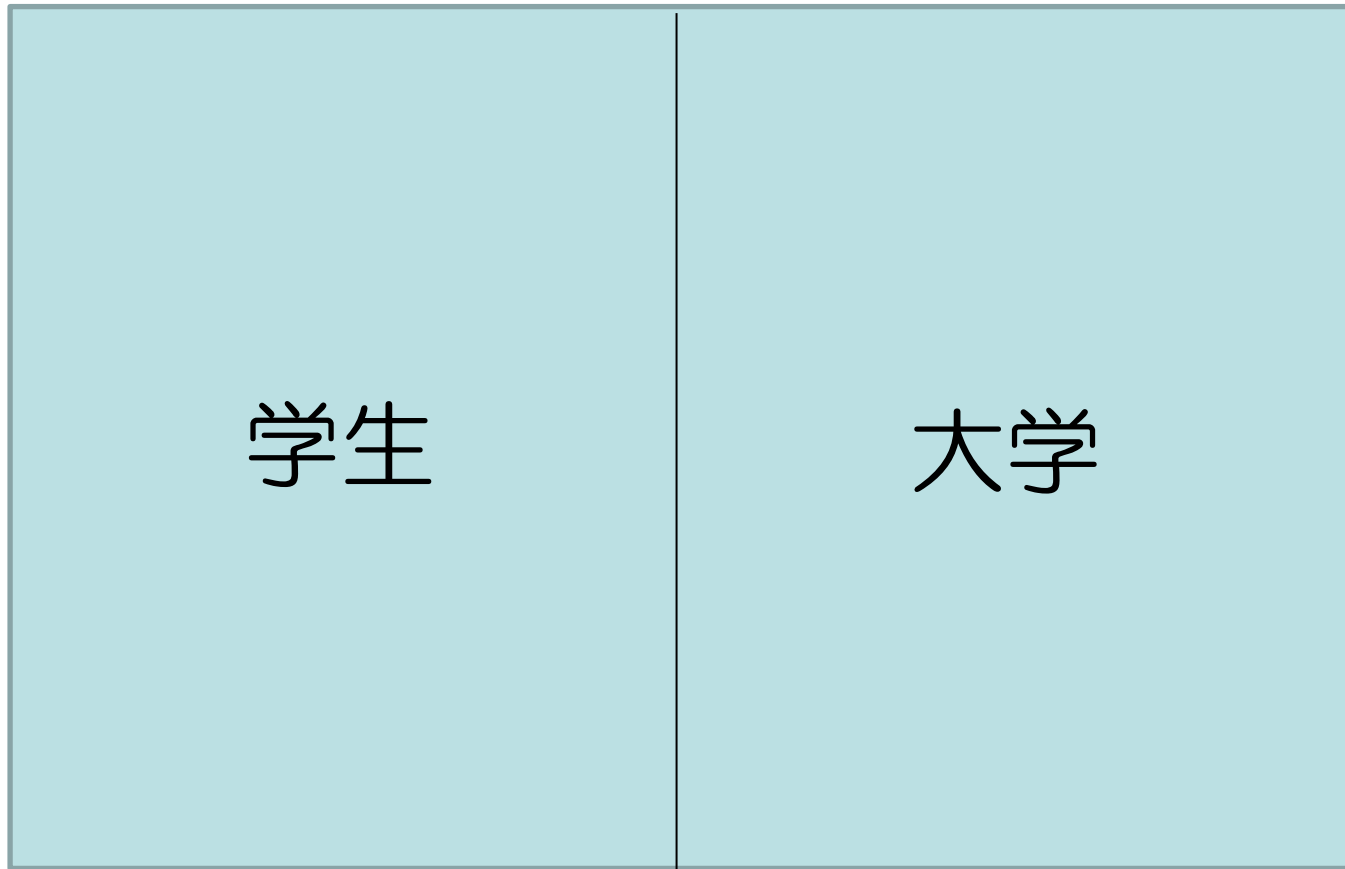
課題：多くの学生が代筆を行っている



目標：学生の代筆をなくす

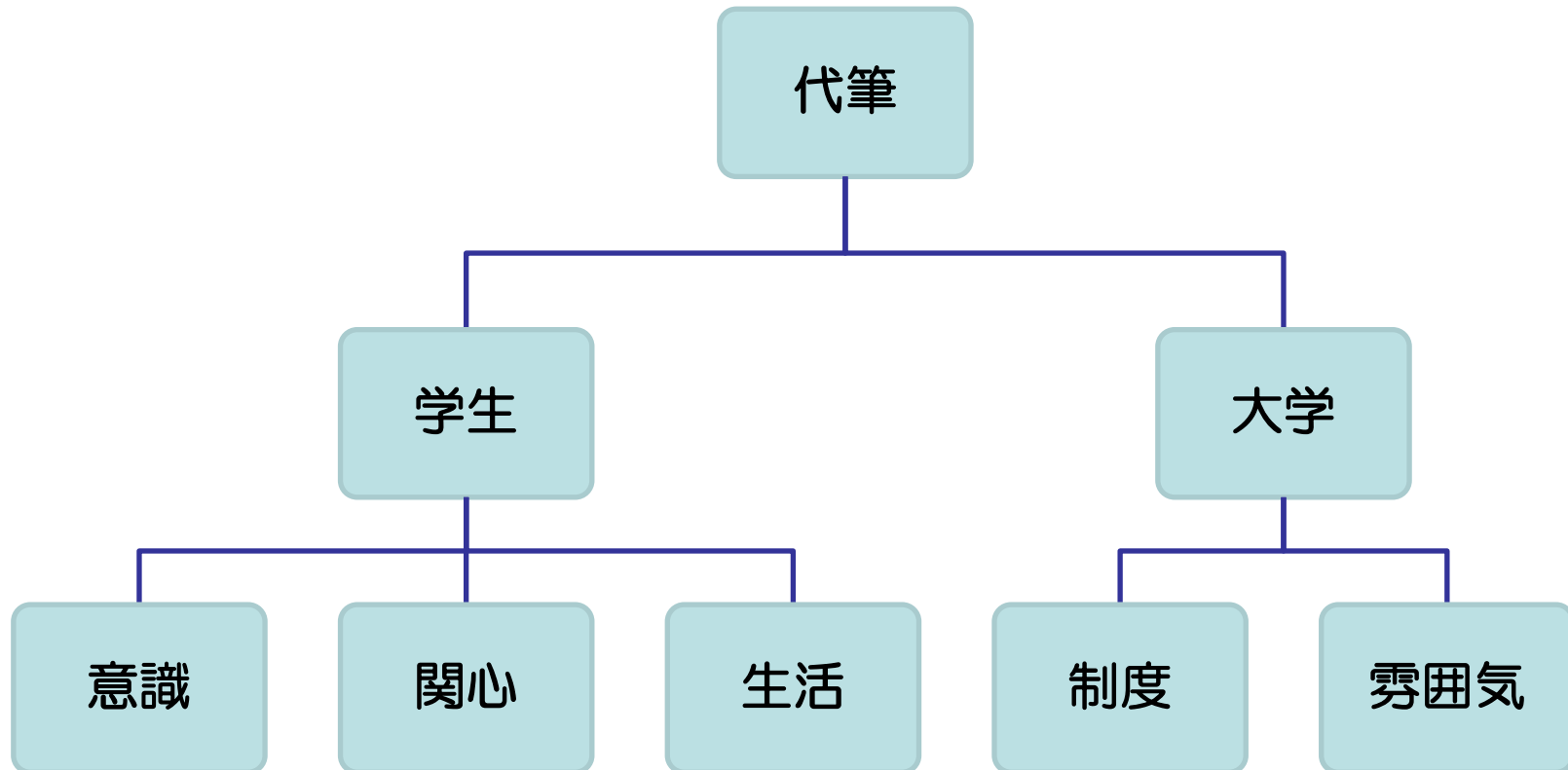
1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

今回の問題にMECEを応用

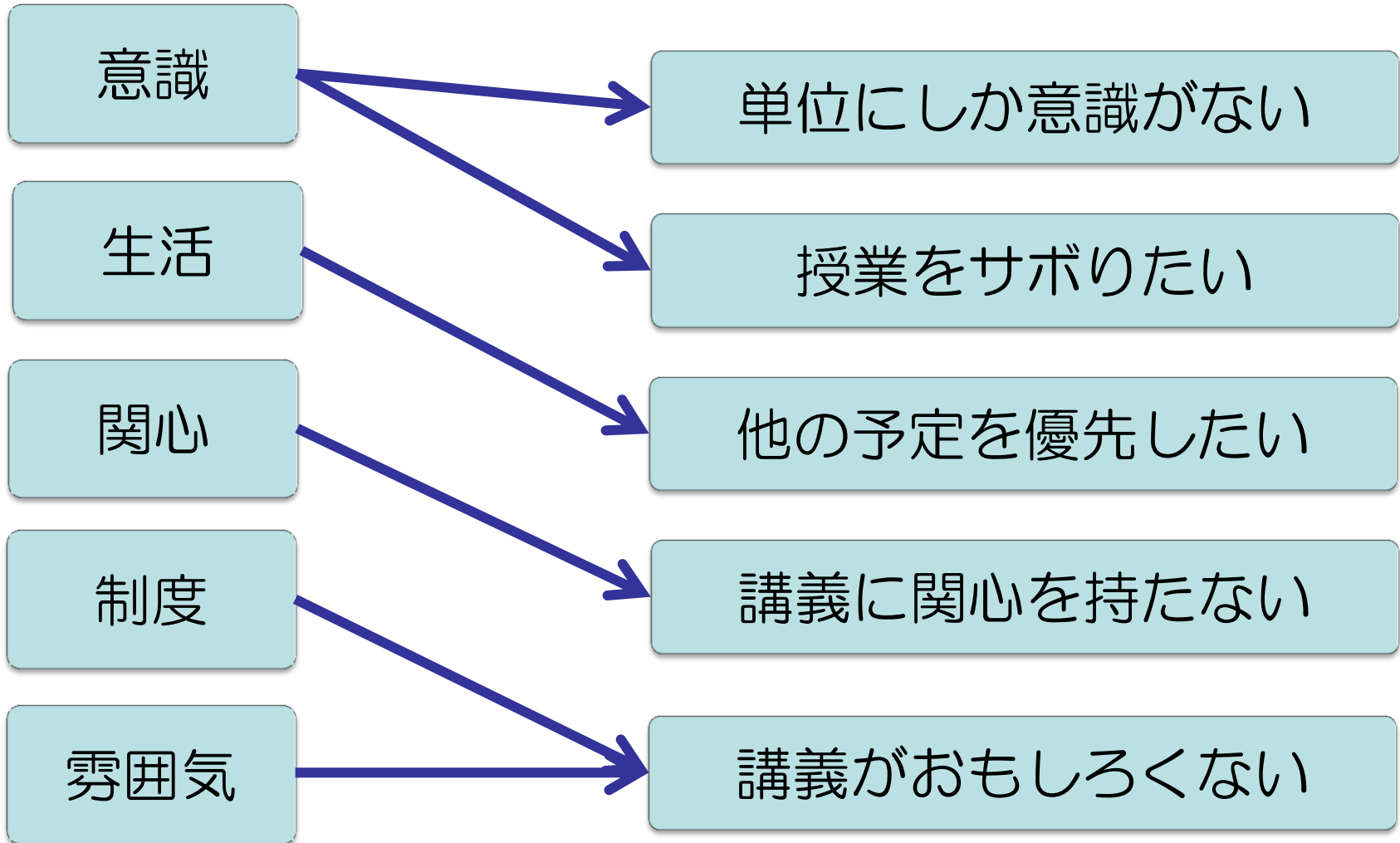


(ご注意) 本資料は大阪市立大学商学部宮川研究室におけるゼミ用教材を目的に作成したものです。資料には事実ではなく仮説として設定された内容が含まれています。これ以外の目的で使用することは固くお断りします。

今回の問題をロジックツリーに応用

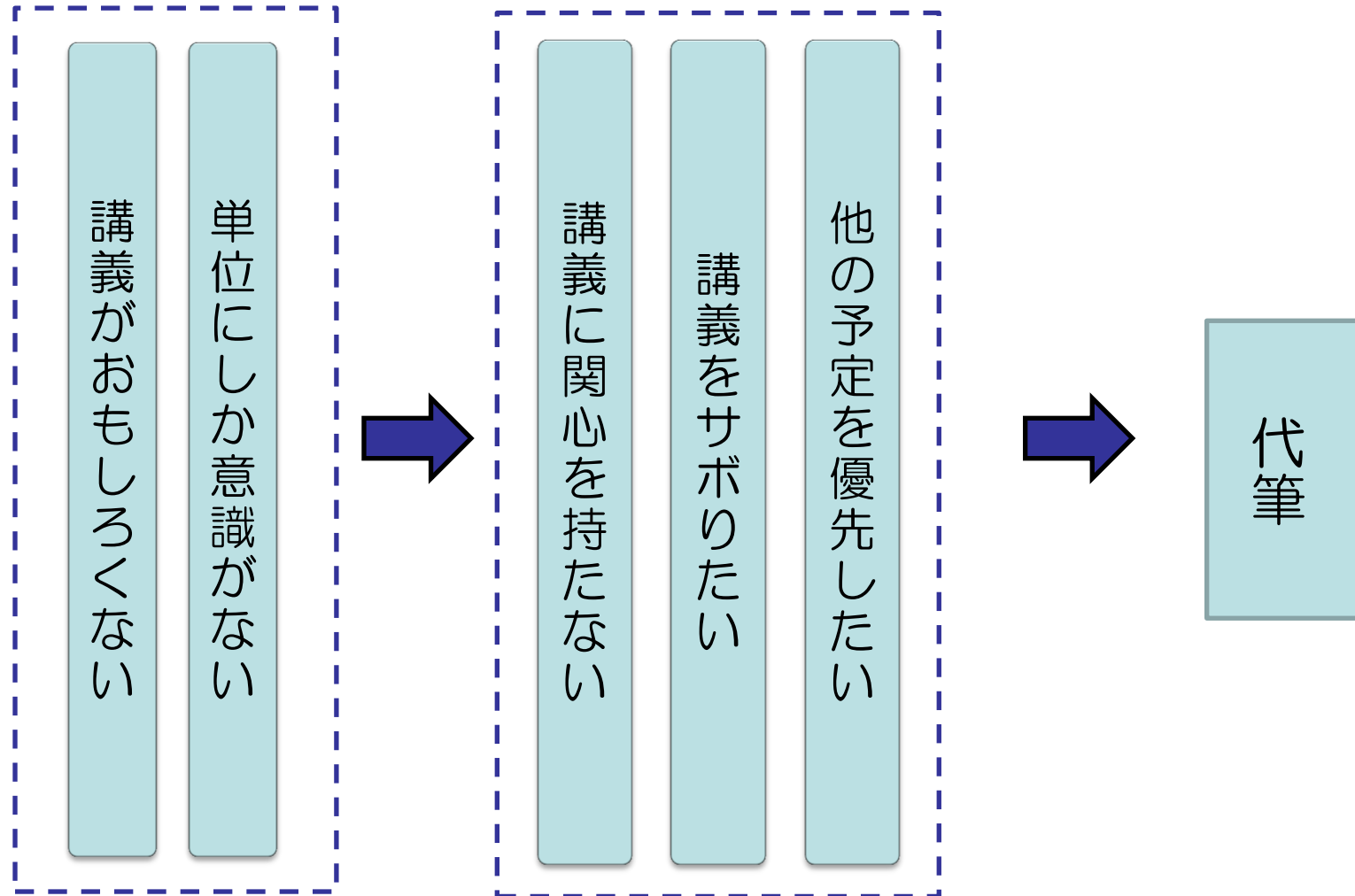


代筆の原因が浮かび上がる



(ご注意) 本資料は大阪市立大学商学部宮川研究室におけるゼミ用教材を目的に作成したものです。資料には事実ではなく仮説として設定された内容が含まれています。これ以外の目的で使用することは固くお断りします。

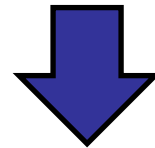
構造化して考える



(ご注意) 本資料は大阪市立大学商学部宮川研究室におけるゼミ用教材を目的に作成したものです。資料には事実ではなく仮説として設定された内容が含まれています。これ以外の目的で使用することは固くお断りします。

解決策を考える

- 授業がおもしろくない
- 単位にしか意識がない

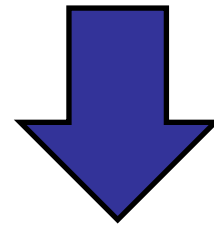


映像によって授業が確認できるシステム

1. 因果関係とは
2. 解決の手段
3. ケーススタディ
4. 解決策の考案
5. まとめ

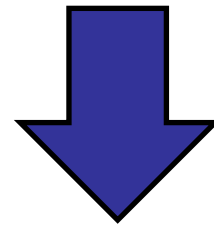
因果関係の把握から問題解決へ

因果関係を見極める



問題の本質を突き止める

事象の構造化



解決策を考案する

問題解決

まとめ

- ✓ 因果関係を見極めることが問題解決の第一歩
- ✓ 事象の構造化による全体と部分の把握
- ✓ 有効な解決策を立案できる

ご清聴ありがとうございました